

AX7800S AX5400S

AX7800S・AX5400S スイッチング・ソフトウェア
マニュアル訂正資料（Ver. 10.10 対応 Rev.1）

■ はじめに

本資料は、AX7800S・AX5400Sシリーズのマニュアル(Copyright (c) 2005, 2011, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.)の訂正内容について説明するものです。本装置をご使用になる時は、この資料を必ずお読みください。本資料の対象となるマニュアル一覧を以下に示します。

項番	マニュアル名称	マニュアル番号
1	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル 解説書 Vol.1 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-016-J0
2	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル 解説書 Vol.2 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-017-J0
3	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-018-J0
4	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル 運用ガイド (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-019-J0
5	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-020-J0
6	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-021-J0
7	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-022-J0
8	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス vol.2 (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-023-J0
9	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル メッセージ・ログレファレンス (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-024-J0
10	AX7800S・AX5400S ソフトウェアマニュアル MIB レファレンス (Ver. 10.10 対応 Rev.1)	AX-10-025-J0

■ 商標一覧

- ・Cisco は、米国Cisco Systems, Inc. の米国および他の国々における登録商標です。
- ・Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- ・JPl は、(株)日立製作所の日本における商品名称(商標又は、登録商標)です。
- ・Microsoft は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・NavisRadius は、Lucent Technologies 社の商標です。
- ・NetFlow は米国およびその他の国における米国Cisco Systems, Inc. の登録商標です。
- ・Octpower は、日本電気(株)の登録商標です。
- ・Odyssey は、米国Funk Software Inc. の米国における登録商標です。
- ・OpenView は、Hewlett-Packard Company の商標です。
- ・sFlow は、米国およびその他の国における米国InMon Corp. の登録商標です。
- ・Solaris は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
- ・UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・Windows は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- ・そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ ご注意

このマニュアル訂正資料は、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■ 発行

2014年3月18日発行(第8版)

■ 著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2005, 2014, ALAXALA Networks, Corp.

変更履歴

表 【第8版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-021-J0)	[12] logger-smtp(SMTP サーバ情報)【訂正】
	[13] ntp (NTP 情報)【追加】

表 【第7版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. 解説書 Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-016-J0)	3.2.1 AX7800S の収容条件【AX7800S】【訂正】
	3.2.2 AX5400S の収容条件【AX5400S】【訂正】
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-021-J0)	19.1.9 ルーティングプロトコル【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-022-J0)	[2] configure(configure terminal)【追加】
	[6] synchronize【追加】
	[8] copy running-config【追加】
	[8] copy startup-config【追加】
	[8] copy backup-config【追加】
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-023-J0)	[2] traceroute ipv6【訂正】
	[10] show gsrp【訂正】

表 【第6版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-023-J0)	[1] show ip-dual interface(IPv4)【訂正】
	[2] show ip-dual interface(IPv6)【訂正】
	[2] show ipv6 interface【訂正】
10. MIB レファレンス Ver. 10.10 (AX-10-025-J0)	2.24.2 dot3adAggPort グループ【訂正】
	3.6.4 axsFlowQos グループ【訂正】

表 【第5版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
2. 解説書 Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-017-J0)	1.8.2 階層化シェーパ【AX7800S】【訂正】
	1.11.9 階層化シェーパを使用する上での注意点【AX7800S】【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-022-J0)	[16] set calendar【訂正】

表 【第4版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
4. 運用ガイド Ver. 10.10 (AX-10-019-J0)	3.1.2 コマンド入力モード【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-022-J0)	[10] show system【訂正】
	[10] reload【訂正】
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-023-J0)	[1] clear ip dhcp binding【訂正】
9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10.10 (AX-10-024-J0)	3.4.2 イベント発生部位=CP【訂正】
	3.6.1 イベント発生部位=MC【訂正】
	3.7.1 イベント発生部位=BCU【訂正】
10. MIB レファレンス Ver. 10.10 (AX-10-025-J0)	2.11 snmp グループ(MIB-II)【追加】

表 【第3版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. 解説書 Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-016-J0)	11.4.2 ICMP 【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-022-J0)	[3] killuser 【訂正】
	[7] copy mc 【訂正】
	[7] format mc 【訂正】
	[8] cd 【追加】
	[8] pwd 【追加】
	[8] ls 【追加】
	[8] cat 【追加】
	[8] cp 【追加】
	[8] mkdir 【追加】
	[8] mv 【追加】
	[8] rm 【追加】
	[8] rmdir 【追加】
	[8] chmod 【追加】
	[9] diff 【追加】
	[9] grep(egrep, fgrep) 【追加】
	[9] more 【追加】
	[9] less 【追加】
	[9] vi 【追加】
	[9] sort 【追加】
	[9] tail 【追加】
	[9] hexdump 【追加】
	[11] close nif 【訂正】
	[11] free nif 【訂正】
	[15] dump cp 【訂正】
	[15] dump psu 【AX7800S】 【訂正】
	[15] dump bsu 【AX5400S】 【訂正】
	[15] dump nif 【訂正】
	[17] close(イーサネット) 【訂正】
	[17] free(イーサネット) 【訂正】
	[17] test interfaces(イーサネット) 【訂正】
	[17] no test interfaces(イーサネット) 【訂正】
	[19] close(POS) 【AX7800S】 【訂正】
	[19] free(POS) 【AX7800S】 【訂正】
[19] test interfaces(POS) 【AX7800S】 【追加】	
[19] no test interfaces(POS) 【AX7800S】 【訂正】	
[23] show spanning-tree 【訂正】	
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-023-J0)	[1] ping 【訂正】
	[1] traceroute 【追加】
	[1] clear tcp(IPv4) 【訂正】
	[1] clear ip dhcp binding 【訂正】
	[1] restart dhcp 【訂正】
	[2] ping ipv6 【訂正】
	[2] clear tcp(IPv6) 【訂正】
	[2] clear ipv6 dhcp binding 【訂正】
	[2] restart ipv6-dhcp server 【訂正】
	[3] show ip static 【追加】
	[4] clear ip mroute 【訂正】
	[5] show ipv6 static 【追加】
	[9] clear mode 【訂正】
	[11] swap vrrp(IPv4) 【訂正】

項目	追加・変更内容
	[11] swap vrrp(IPv6) 【訂正】

表 【第2版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. 解説書 Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-016-J0)	11.5.2 ブロードキャストパケットの中継方法 【訂正】 15.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え) 【訂正】 19.6.2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え) 【訂正】
2. 解説書 Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-017-J0)	8.1.1 概要 【訂正】
5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-020-J0)	[4] link-aggregation (リンクアグリゲーション情報) 【訂正】 [13] relay-interface (relay インタフェース情報) 【追加】
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-021-J0)	[13] ntp (NTP 情報) 【追加】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver. 10.10 (AX-10-022-J0)	[16] rdate 【訂正】
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver. 10.10 (AX-10-023-J0)	[1] show netstat(netstat) (IPv4) 【訂正】 [1] show filter-flow(IPv4) 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [1] clear filter-flow(IPv4) 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [2] show netstat(netstat) (IPv6) 【訂正】 [2] show filter-flow(IPv6) 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [2] clear filter-flow(IPv6) 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [7] show qos ip-flow 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [7] clear qos ip-flow 【訂正】 (初版で訂正した内容の再訂正) [10] show gsrp 【訂正】
9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10.10 (AX-10-024-J0)	3.4.1 イベント発生部位=RM 【訂正】 3.6.1 イベント発生部位=MC 【追加】 3.7.1 イベント発生部位=BCU 【追加】
10. MIB レファレンス Ver. 10.10 (AX-10-025-J0)	4.1 サポートトラップおよび発行契機 【訂正】 4.2 サポートトラップ -PDU内パラメータ 【AX7800S】 【訂正】 4.3 サポートトラップ -PDU内パラメータ 【AX5400S】 【訂正】

目 次

1. 解説書 Vol.1 Ver.10.10 (AX-10-016-J0) の訂正内容	7
2. 解説書 Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-017-J0) の訂正内容	14
3. コンフィグレーションガイド Ver.10.10 (AX-10-018-J0) の訂正内容	18
4. 運用ガイド Ver.10.10 (AX-10-019-J0) の訂正内容	19
5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 Ver.10.10 (AX-10-020-J0) の訂正内容	20
6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-021-J0) の訂正内容	21
7. 運用コマンドレファレンス Vol.1 Ver.10.10 (AX-10-022-J0) の訂正内容	24
8. 運用コマンドレファレンス Vol.2 Ver.10.10 (AX-10-023-J0) の訂正内容	53
9. メッセージ・ログレファレンス Ver.10.10 (AX-10-024-J0) の訂正内容	68
10. MIB レファレンス Ver.10.10 (AX-10-025-J0) の訂正内容	74

1. 解説書 Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-016-J0) の訂正内容

3. 収容条件 (P35~P104)

(1) 3. 2. 1 AX7800Sの収容条件【AX7800S】【訂正】

「(12)GSRP (P47)」を訂正します。

【訂正前】

GSRP でレイヤ 3 冗長切替機能を使用する場合、装置に定義している各 VLAN に設定するポート数の合計(VLAN 数とポート数の積)の最大数は、10,000 です。

【訂正後】

GSRP でレイヤ 3 冗長切替機能を使用する場合、装置に定義している各 VLAN に設定するポート数の合計(VLAN 数とポート数の積)の最大数は、10,000 です。リンクアグリゲーションの場合は、リンクアグリゲーション単位で 1VLAN ポートと数えます。

「(26)OADP (P76)」を訂正します。

【訂正前】

OADP 機能では、隣接装置情報の最大収容数は装置当たり 500 です。

【訂正後】

OADP 機能では、隣接装置情報の最大収容数は装置当たり 500 です。リンクアグリゲーションの場合は、リンクアグリゲーション単位で 1VLAN ポートと数えます。

(2) 3. 2. 2 AX5400Sの収容条件【AX5400S】【訂正】

「(11)GSRP (P79)」を訂正します。

【訂正前】

GSRP でレイヤ 3 冗長切替機能を使用する場合、装置に定義している各 VLAN に設定するポート数の合計(VLAN 数とポート数の積)の最大数は、5,000 です。

【訂正後】

GSRP でレイヤ 3 冗長切替機能を使用する場合、装置に定義している各 VLAN に設定するポート数の合計(VLAN 数とポート数の積)の最大数は、5,000 です。リンクアグリゲーションの場合は、リンクアグリゲーション単位で 1VLAN ポートと数えます。

「(25)OADP (P104)」を訂正します。

【訂正前】

OADP 機能では、隣接装置情報の最大収容数は装置当たり 500 です。

【訂正後】

OADP 機能では、隣接装置情報の最大収容数は装置当たり 500 です。リンクアグリゲーションの場合は、リンクアグリゲーション単位で 1VLAN ポートと数えます。

11. IPv4 パケット中継 (P247~P308)

(1) 11.4.2 ICMP 【訂正】

「表 11-3 ICMP メッセージサポート仕様(値は 10 進) (P254)」を訂正します。

【訂正内容】

表 11-3 ICMP メッセージサポート仕様(値は 10 進)

ICMP メッセージ				サポート
タイプ(種別)		コード(詳細種別)		
—	値	—	値	
Destination Unreachable	3	Net Unreachable	0	○
		Host Unreachable	1	○
		Protocol Unreachable	2	×
		Port Unreachable	3	○
		Fragmentation Needed and DF Set	4	○
		Source Route Failed	5	○
		Destination Network Unknown	6	×
		Destination Host Unknown	7	×
		Network Unreachable for Type of Service	11	×
		Host Unreachable for Type of Service	12	×
		Communication Administratively Prohibited	13	○
		Host Precedence Violation	14	×
		Precedence Cutoff in Effect	15	×
:	:	:	:	:

訂正

(2) 11.5.2 ブロードキャストパケットの中継方法【訂正】

「(3) オールサブネットワークブロードキャスト (P262)」を訂正します。

【訂正前】

(3) オールサブネットワークブロードキャスト

オールサブネットワークブロードキャストとは、サブネットワーク化されたすべてのネットワークに対するブロードキャストです。

例えば、100.1.0.0/16 のネットワークをサブネットワーク化して、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 の二つのサブネットワークに分割して使用している場合に、100.1.255.255 を宛先とするオールサブネットワークブロードキャストの IP パケットが送信された場合、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークを直接接続する本装置までは該当パケットが届きますが、本装置配下の 100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークへは中継しないで本装置で該当パケットを廃棄します。オールサブネットワークブロードキャストを次の図に示します。

【訂正後】

(3) オールサブネットワークブロードキャスト

オールサブネットワークブロードキャストとは、サブネットワーク化されたすべてのネットワークに対するブロードキャストです。本装置ではオールサブネットワークブロードキャストを通常の経路として扱います。

例えば、100.1.0.0/16 のネットワークをサブネットワーク化して、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 の二つのサブネットワークに分割して使用している場合に、100.1.255.255 を宛先とするオールサブネットワークブロードキャストの IP パケットが送信された場合、100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークを直接接続する本装置までは該当パケットが届きますが、本装置配下の 100.1.1.0/24 と 100.1.2.0/24 のサブネットワークへは中継しないで本装置で該当パケットを廃棄します。なお、デフォルト経路などほかに一致する経路がある場合、その経路を使用して IP パケットが送信されます。オールサブネットワークブロードキャストを次の図に示します。

15. IPv4 マルチキャスト【OP-MLT】(P461~P521)

(1) 15. 6. 2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】

「(1)PIM-SM の使用 (P514)」を訂正します。[Ver. 10. 10. H以降]

【訂正前】

<省略>

- 回線復旧によって冗長経路から優先経路に切り替わった場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0～(送信者方向の Hello 送信周期+20) 秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

- ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。
通信再開までの時間は、ランデブーポイントまたは BSR で異なります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

- 回線復旧によって冗長経路から優先経路に切り替わった場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+ (送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20) 秒 (デフォルトでは U+30+20=U+50 秒)

- ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。
通信再開までの時間は、ランデブーポイントまたは BSR で異なります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

「(2)PIM-SSM の使用 (P515)」を訂正します。[Ver. 10. 10. H 以降]

【訂正前】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合，通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし，切り戻りには次に示す時間が掛かります。

U+0～（送信者方向の Hello 送信周期+20）秒 （デフォルトでは 30+20=50 秒）

- DR が本装置に切り替わった場合，通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合，通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし，切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+（送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20）秒（デフォルトでは U+30+20=U+50 秒）

- DR が本装置に切り替わった場合，通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

19. IPv6 マルチキャスト【OP-MLT】(P651~P689)

(1) 19. 6. 2 冗長経路(回線障害などによる経路切り替え)【訂正】

「(1) IPv6 PIM-SM の使用 (P684)」を訂正します。[Ver. 10. 10. H 以降]

【訂正前】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0～(送信者方向の Hello 送信周期+20) 秒 (デフォルトでは 30+20=50 秒)

- ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

<省略>

【訂正後】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+(送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20) 秒 (デフォルトでは U+30+20=U+50 秒)

- ランデブーポイントおよび BSR が本装置に切り替わった(障害やコンフィグレーションなどでランデブーポイントおよび BSR を本装置にする)場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

<省略>

「(2) IPv6 PIM-SSM の使用 (P685)」を訂正します。[Ver. 10.10.H 以降]

【訂正前】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし、切り戻りには次に示す時間が掛かります。

U+0～（送信者方向の Hello 送信周期+20）秒（デフォルトでは 30+20=50 秒）

- DR が本装置に切り替わった場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

【訂正後】

<省略>

- 回線復旧により冗長経路から優先経路に切り戻った場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。

0 秒

ただし、切り戻りにかかる時間は次に示す時間が掛かります。

U+（送信者方向の PIM-Hello メッセージの送信周期+20）秒（デフォルトでは U+30+20=U+50 秒）

- DR が本装置に切り替わった場合、通信再開までには次に示す時間が掛かることがあります。括弧内はデフォルト値を示します。

<省略>

2. 解説書 Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-017-J0) の訂正内容

1. QoS制御 (P1~P58)

(1) 1. 8. 2 階層化シェーパ【AX7800S】【訂正】

「(1)アグリゲートキュー帯域制御 (a)制御方式 (P38~P39)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

余剰帯域は、デフォルトではユーザ間で均等に分配します。また、設定によってユーザ単位に余剰帯域の分配比率(重み)を決めることができます。分配比率に応じた余剰帯域の計算例を次の表に示します。この表ではポート帯域制御によって回線帯域を 900Mbit/s にシェーピングする場合を想定します。計算を簡単にするため、ユーザ数を三つにします。

表 1-31 余剰帯域の計算例

割り当てユーザ	入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	余剰帯域分配比率	余剰帯域 (Mbit/s) ※	実際の送信帯域 (Mbit/s)
VLAN1	400	200	900	3	150	350
VLAN2	350	200	900	2	100	300
VLAN1023	250	200	900	1	50	250

注※ 回線内の余剰帯域=回線帯域-各ユーザごとの最低帯域の合計

$$=900-(200+200+200)=300(\text{Mbit/s})$$

$$\text{VLAN1 の余剰帯域}=300 \times (3 \div (3+2+1))=150(\text{Mbit/s})$$

$$\text{VLAN2 の余剰帯域}=300 \times (2 \div (3+2+1))=100(\text{Mbit/s})$$

$$\text{VLAN1023 の余剰帯域}=300 \times (1 \div (3+2+1))=50(\text{Mbit/s})$$

【訂正後】

<省略>

余剰帯域は、デフォルトではユーザ間で均等に分配します。また、設定によってユーザ単位に余剰帯域の分配比率(重み)を決めることができます。分配比率に応じた余剰帯域の計算例を次の表に示します。この表ではポート帯域制御によって回線帯域を 900Mbit/s にシェーピングする場合を想定します。計算を簡単にするため、ユーザ数を三つにします。

表 1-31 余剰帯域の計算例

(回線帯域=900Mbit/s)

割り当てユーザ	実際の入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s) ※1	最大帯域 (Mbit/s) ※2	重み ※1	余剰帯域 (Mbit/s) ※3	保証帯域 (Mbit/s) ※4	実際の送信帯域 (Mbit/s)
VLAN1	400	200	900	3	150	350	350
VLAN2	350	200	900	2	100	300	300
VLAN1023	250	200	900	1	50	250	250

注※1

各ユーザに保証される帯域は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものになります。各ユーザに対して保証すべき帯域を考慮した上で、各ユーザの最低帯域や重みを決定してください。

注※2

各ユーザの帯域リソース分配は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものによって行われるため、各ユーザの帯域リソース分配のために最大帯域を回線帯域より小さい値に設定しないでください。回線帯域に比べて小さい値を設定すると、回線帯域の利用効率が低下する場合があります。

注※3

回線内の余剰帯域＝回線帯域－各ユーザの最低帯域の合計
 $= 900 - (200 + 200 + 200) = 300$ (Mbit/s)
 VLAN1 の余剰帯域 $= 300 \times (3 \div (3 + 2 + 1)) = 150$ (Mbit/s)
 VLAN2 の余剰帯域 $= 300 \times (2 \div (3 + 2 + 1)) = 100$ (Mbit/s)
 VLAN1023 の余剰帯域 $= 300 \times (1 \div (3 + 2 + 1)) = 50$ (Mbit/s)

注※4

各ユーザの保証帯域（最大帯域以下）
 ＝各ユーザの最低帯域＋各ユーザに分配された余剰帯域
 VLAN1 の保証帯域 $= 200 + 150 = 350$ (Mbit/s)
 VLAN2 の保証帯域 $= 200 + 100 = 300$ (Mbit/s)
 VLAN1023 の保証帯域 $= 200 + 50 = 250$ (Mbit/s)

(2) 1.11.9 階層化シェーパを使用する上での注意点【AX7800S】【訂正】

「1.11.9 階層化シェーパを使用する上での注意点（P58）」を訂正します。

【訂正前】**1.11.9 階層化シェーパを使用する上での注意点【AX7800S】**

1. ARP などの制御系パケットの送信時や回線テストの実施時には、デフォルトのアグリゲートキューを使用します。したがって、階層化シェーパ機能を設定した物理回線のデフォルトアグリゲートキューに帯域を割り当てるように設定してください。

【訂正後】**1.11.9 階層化シェーパ使用時の注意事項【AX7800S】**

1. ARP などの制御系パケットの送信時や回線テストの実施時には、デフォルトのアグリゲートキューを使用します。したがって、階層化シェーパ機能を設定した物理回線のデフォルトアグリゲートキューに帯域を割り当てるように設定してください。

2. RGQ による帯域制御の注意事項を次に示します。

- ・各ユーザに保証される帯域は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものになります。各ユーザに対して保証すべき帯域を考慮した上で、各ユーザの最低帯域や重みを決定してください。
- ・各ユーザの帯域リソース分配は、最低帯域に重みによって分配される余剰帯域を加えたものによって行われるため、各ユーザの帯域リソース分配のために最大帯域を回線帯域より小さい値に設定しないでください。各ユーザの最大帯域を回線帯域に比べて小さい値を設定すると、回線帯域の利用効率が低下する場合があります。

例えば、ポート帯域制御によって回線帯域を 600Mbit/s にシェーピングし、ユーザ 1/2/3 で輻輳時に 3:2:1 で帯域リソースを分配する例を示します。表 1-49 の設定例では各ユーザの最大帯域は回線帯域と同じ値なので、ユーザの保証帯域内で未使用帯域が存在した場合（ユーザ 2）、その未使用帯域を他ユーザ（ユーザ 1 およびユーザ 3）が有効活用でき、各ユーザの送信帯域の合計は回線帯域と同じ

になります。表 1-50 の設定例ではユーザ 3 の最大帯域が回線帯域より小さい値に設定され、ユーザ 3 で最大帯域を越える帯域のトラフィックが入力されています。このときにユーザの保証帯域内で未使用帯域が存在した場合（ユーザ 2）、その未使用帯域を他ユーザ（ユーザ 1）が有効活用しきれずに、各ユーザの送信帯域の合計が回線帯域を下回る場合があります。

表 1-49 RGQ の設定例および送信帯域

(回線帯域=600Mbit/s)

割り当てユーザ	実際の入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	重み	余剰帯域 (Mbit/s)	保証帯域 (Mbit/s)	実際を送信帯域 (Mbit/s)
ユーザ 1	500	300	600	3	0	300	380 ^{*1}
ユーザ 2	100	200	600	2	0	200	100
ユーザ 3	150	100	600	1	0	100	120 ^{*1}

(各ユーザの送信帯域の合計=600Mbit/s)

注※1 保証帯域を超えた送信帯域は、入力トラフィック条件等によって変化します。本帯域を保証するものではありません。各ユーザで保証される帯域は、保証帯域までとなります。

表 1-50 RGQ の設定例および送信帯域

(回線帯域=600Mbit/s)

割り当てユーザ	実際の入力帯域 (Mbit/s)	最低帯域 (Mbit/s)	最大帯域 (Mbit/s)	重み	余剰帯域 (Mbit/s)	保証帯域 (Mbit/s)	実際を送信帯域 (Mbit/s)
ユーザ 1	500	300	600	3	0	300	330 ^{*1}
ユーザ 2	100	200	600	2	0	200	100
ユーザ 3	150	100	100	1	0	100	100

(各ユーザの送信帯域の合計=530Mbit/s)

注※1 保証帯域を超えた送信帯域は、入力トラフィック条件等によって変化します。本帯域を保証するものではありません。各ユーザで保証される帯域は、保証帯域までとなります。

8. IEEE802.3ah/UDLD (P177~P179)

(1) 8.1.1 概要【訂正】

「概要の内容 (P178)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル (以下 IEEE802.3ah/OAM と示す) では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式がとられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。

<省略>

イーサネットケーブルで接続された片方の装置側のポートに障害検出モードを設定することで、片方向リンク障害の検出動作を行います。正しく片方向リンク障害を検出させるためには、もう一方の装置側のポートで IEEE802.3ah/OAM 機能が有効である必要があります。障害検出モードを設定したポートで片方向リンク障害を検出した場合、そのポートの閉塞処理をすることで対向装置側のポートでもリンクダウンが検出され、接続された双方の装置で該当するポートにおける運用を停止します。

【訂正後】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル (以下 IEEE802.3ah/OAM と示す) では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式がとられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。本装置の UDLD 機能では、片方向リンク障害の検出のほかに、自装置から送信した制御フレームを同一装置で受信した場合はループと判断し、受信したポートの閉塞も行います。

<省略>

イーサネットケーブルで接続された双方の装置のポートに障害検出モードを設定することで、片方向リンク障害の検出動作を行います。障害検出モードを設定したポートで片方向リンク障害を検出した場合、そのポートの閉塞処理をすることで対向装置側のポートでもリンクダウンが検出され、接続された双方の装置で該当するポートにおける運用を停止します。

3. *コンフィグレーションガイド Ver. 10. 10 (AX-10-018-J0)* の訂正内容

訂正する内容はあります。

4. 運用ガイドVer. 10.10 (AX-10-019-J0) の訂正内容

3. コマンド操作 (P13~P25)

(1) 3.1.2 コマンド入力モード【訂正】

「CLI プロンプト表示の説明 (P15)」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

また、CLI プロンプトとして、次に示す場合でも、その状態を意味する文字がプロンプトの先頭に表示されます。

1. コンフィグレーションコマンド `system` の `name` パラメータで本装置のホスト名称を設定している場合、プロンプトに反映されます。
2. ランニングコンフィグレーションを編集し、その内容をスタートアップコンフィグレーションに保存していない場合、プロンプトの先頭に”！”が付きます。

<省略>

【訂正後】

<省略>

また、CLI プロンプトとして、次に示す場合でも、その状態を意味する文字がプロンプトの先頭に表示されます。

1. コンフィグレーションコマンド `system` の `name` パラメータで本装置のホスト名称を設定している場合、ホスト名称(先頭 20 文字まで)がプロンプトに反映されます。
2. ランニングコンフィグレーションを編集し、その内容をスタートアップコンフィグレーションに保存していない場合、プロンプトの先頭に”！”が付きます。

<省略>

5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-020-J0) の訂正内容

4. ライン情報 (P85~P151)

(1) link-aggregation (リンクアグリゲーション情報) 【訂正】

「サブコマンド max-active-port の本サブコマンド使用時の注意事項 (P147)」を訂正します。

【訂正前】

3. 本サブコマンド使用時の注意事項

本サブコマンドは mode サブコマンドで static を指定した場合だけ有効です。
スタンバイリンクモードのリンクダウン/非リンクダウン変更はできません。変更する場合、本パラメータを削除後に、再度本サブコマンドの設定が必要です。
非リンクダウンモードでポート数を変更する場合、no-link-down の指定が必要です。

【訂正後】

3. 本サブコマンド使用時の注意事項

本サブコマンドは mode サブコマンドで static を指定した場合だけ有効です。
スタンバイリンクモードのリンクダウン/非リンクダウン変更はできません。変更する場合、本パラメータを削除後に、再度本サブコマンドの設定が必要です。
非リンクダウンモードでポート数を変更する場合、no-link-down の指定が必要です。
本コマンドを設定することで、リンクダウンしていたポートがスタンバイリンクに選択された場合、当該ポートに対して、集約されたことを示すログを表示することなく、スタンバイリンクによって離脱したことを示すログのみを表示します。

13. DHCPリレー情報 (P313~P325)

(1) relay-interface (relayインタフェース情報) 【追加】

「注意事項 (P325)」に追加します。[Ver. 10. 10. K 以降]

【追加】

- IP 中継で直接接続するネットワークまたはサブネットワークのブロードキャスト (ダイレクトブロードキャスト) DHCP パケットを受信し、かつ中継を許可する設定 (コンフィグレーションコマンド” ip <IP Address_own> {mask <Subnet Mask> | masklen <Subnet Mask Bit Length> | /<SubnetMask Bit Length>} directbroad_forward”) を行っている場合、IP 中継と DHCP リレーエージェントによる転送がそれぞれ行われます。

6. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-021-J0) の訂正内容

12. ログ情報 (P369~P381)

(1) *logger-smtp* (SMTPサーバ情報) 【訂正】

「パラメータ (P380)」を訂正します。

【訂正前】

```
port <port number>  
SMTP サーバのポート番号を指定します。省略時は標準値(25) を使用します。
```

【訂正後】

```
port <port number>  
SMTP サーバのポート番号を 0 または 1 ~ 65535 の範囲内で指定します。  
省略時及び 0 指定時は標準値(25) を使用します。
```

13. NTP情報 (P383~P389)

(1) *ntp* (NTP情報) 【追加】

「注意事項 (P389)」に追加します。

【追加】

13. *clientlimt* によるクライアント数の上限指定はできませんので、*ntp* サーバへのアクセスを制御する場合は、*restrict* パラメータで条件を指定ください。

「注意事項 (P389)」に追加します。[10. 10. R 以降]

【追加】

14. 本装置は NTP モード 6 およびモード 7 のパケットに応答しません。

19. コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ (P435~P555)

(1) 19.1.9 ルーティングプロトコル【訂正】

「表 19-9 ルーティングプロトコルのエラーメッセージ一覧 (P470)」を訂正します。

【訂正前】

メッセージ	内容
attribute-list: invalid index number in extended community number value at <Value> not in range 0 to { 65535 4294967295 }	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正です。 0 ~ 65535, または 0 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。 <Value> : 指定 ID 番号

【訂正後】

メッセージ	内容
attribute-list: invalid index number in extended community value at <Value> not in range 0 to { 65535 4294967295 }	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正です。 0 ~ 65535, または 0 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。 <Value> : 指定 ID 番号

「表 19-9 ルーティングプロトコルのエラーメッセージ一覧 (P505)」を訂正します。

【訂正前】

メッセージ	内容
route-filter: invalid index number in extended community number value at <Value> not in range 0 to { 65535 4294967295 }	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正です。 0 ~ 65535, または 0 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。 <Value> : 指定 ID 番号

【訂正後】

メッセージ	内容
route-filter: invalid index number in extended community value at <Value> not in range 0 to { 65535 4294967295 }	拡張コミュニティ内の ID 番号の指定範囲が不正です。 0 ~ 65535, または 0 ~ 4294967295 の範囲で指定してください。 <Value> : 指定 ID 番号

7. 運用コマンドレファレンス Vol. 1 Ver. 10. 10 (AX-10-022-J0) の訂正内容

2. モード切替 (P9~P17)

(1) *configure* (*configure terminal*) 【追加】

「注意事項 (P17)」に追加します。

【追加】

13. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, *apply* コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に *apply* コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

3. ログインユーザ (P19~P35)

(1) *killuser* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P34)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
なし

6. ソフトウェア管理 (P57~P79)

(1) *synchronize* 【追加】

「注意事項 (P79)」に追加します。

【追加】

12. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, *apply* コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に *apply* コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

7. MC保守 (P81~P89)

(1) *copy mc* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P82)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

装置運用中に本コマンドを実行すると、一時的にネットワークが不安定になる可能性があります。

(2) *format mc* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P84)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

装置運用中に本コマンドを実行すると、一時的にネットワークが不安定になる可能性があります。

8. ファイル操作 (P91~P128)

(1) *copy running-config* 【追加】

「注意事項 (P96)」に追加します。

【追加】

8. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, **apply** コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に **apply** コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

(2) *copy startup-config* 【追加】

「注意事項 (P98)」に追加します。

【追加】

12. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, **apply** コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に **apply** コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

(3) *copy backup-config* 【追加】

「注意事項 (P101)」に追加します。

【追加】

14. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, **apply** コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に **apply** コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

(4) *erase startup-config* 【追加】

「注意事項 (P105)」に追加します。

【追加】

5. IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストプロトコル情報の変更を行い, **apply** コマンドを実行していない場合, 本コマンドを入力するとコマンドの実行前に **apply** コマンドを自動で実行し, 変更した IP ルーティングプロトコル情報, IP マルチキャストルーティングプロトコル情報が運用に反映されます。

(5) cd 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P108)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(6) pwd 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P109)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(7) ls 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P110)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(8) cat 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P114)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(9) cp 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P115)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(10) mkdir 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P116)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(11) mv 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P117)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(12) rm 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P118)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(13) rmdir 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P119)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(14) chmod 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P126)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

9. ユーティリティ (P129~P137)

(1) *diff* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P130)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(2) *grep (egrep, fgrep)* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P131)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(3) *more* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P132)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(4) *less* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P133)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(5) *vi* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P134)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(6) *sort* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P135)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(7) *tail* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P136)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(8) *hexdump* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P137)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

10. 装置管理 (P139~P218)

(1) show system 【訂正】

「表 10-3 show system コマンド表示内容 (2/8) 【AX7800S】 (P151~P152)」を訂正します。

【訂正内容】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
BCU	BCU 情報	—
	BCU の動作状態	Active : 運用系として稼働中 Standby : 待機系として稼働中 Fault : 障害中 ^{*9} ← 訂正 Closed : 保守中 Disconnect : 未実装 Configuration Discord : コンフィグレーション不一致によって運用系と非同期中 Software Version Discord : S/W バージョン不一致によって運用系と非同期中 License Key Discord : ライセンスキー不一致によって運用系と非同期中 Booting : 初期化中
:	:	:

注※4 SYSTEM OPERATION PANEL 情報は、以下の基準で情報を表示します。

- ・ 障害が発生していない場合は、' No error' を表示します。
- ・ 二重障害が発生中の場合は、最もイベントレベルの高い障害情報を表示します。
- ・ 障害が発生していない状態で、「SYSTEM OPERATION PANEL」操作中の場合は、' No error' を表示します。

追加 { 注※9 standby 系 BCU の起動直後は show system 上 status が一時的に「Fault」となります。
Standby 系 BCU の status が「Fault」のまま移行しない場合、ハードウェア診断により異常を検知したことを示します。

「表 10-4 show system コマンド表示内容 (3/8) 【AX7800S】 (P152~P153)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CP の起動時刻	CP の起動時刻
	CP の起動要因	Power ON : 電源スイッチ ON による起動 Operation Reboot : リブートコマンドまたは BCU ALTERNATE スイッチ押下による再起動 Fatal : 障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

【訂正後】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CP の起動時刻	CP の起動時刻
	CP の起動要因	Power ON : 電源スイッチ ON による起動 Operation Reboot : ユーザ操作による再起動 Fatal : 障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

「表 10-8 show system コマンド表示内容 (6/8) 【AX5400S】 (P155~P156)」を訂正します。

【訂正内容】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
BCU	BCU 情報	—
	BCU の動作状態	Active : 運用系として稼働中 Standby : 待機系として稼働中 Fault : 障害中 *7 ← 訂正 Closed : 保守中 Disconnect : 未実装 Configuration Discord : コンフィグレーション不一致によって運用系と非同期中 Software Version Discord : S/W バージョン不一致によって運用系と非同期中 License Key Discord : ライセンスキー不一致によって運用系と非同期中 Booting : 初期化中 ← 訂正
:	:	:

注※2 SYSTEM OPERATION PANEL 情報は、以下の基準で情報を表示します。

- ・ 障害が発生していない場合は、' No error' を表示します。
- ・ 二重障害が発生中の場合は、最もイベントレベルの高い障害情報を表示します。
- ・ 障害が発生していない状態で、「SYSTEM OPERATION PANEL」操作中の場合は、' No error' を表示します。

追加

注※7 standby 系 BCU の起動直後は show system 上 status が一時的に「Fault」となります。Standby 系 BCU の status が「Fault」のまま移行しない場合、ハードウェア診断により異常を検知したことを示します。

「表 10-9 show system コマンド表示内容 (7/8) 【AX5400S】 (P157)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CP の起動時刻	CP の起動時刻
	CP の起動要因	Power ON : 電源スイッチ ON による起動 Operation Reboot : リブートコマンドまたは BCU ALTERNATE スイッチ押下による再起動 Fatal : 障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

【訂正後】

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Boot	CP の起動時刻	CP の起動時刻
	CP の起動要因	Power ON : 電源スイッチ ON による起動 Operation Reboot : ユーザ操作による再起動 Fatal : 障害による再起動
	CP リスタート回数	障害による CP リスタート回数
:	:	:

(2) reload 【訂正】

「[機能] (P169)」を訂正します。

【訂正前】

装置または CP を再起動し、通常動作時はログ、ダンプを採取します。
二重化構成で運用系装置の装置再起動を指定した場合には系切替します。

【訂正後】

装置または CP を再起動します。
二重化構成で運用系装置の装置再起動を指定した場合には系切替します。
パラメータ指定により、ログ、ダンプを採取します。

「[パラメータ] (P169～P170)」を訂正します。

【訂正前】

[パラメータ]

secondary

本パラメータを指定した場合、必ず MC スロット 1 からソフトウェアを起動します。本パラメータは指定したときだけ有効であり、常時起動する MC スロットを設定したい場合は `set mode` コマンドを使用してください。

また、`system` パラメータを指定しなかった場合、本パラメータは運用系、待機系共に有効となります。

no-dump-image

ログ、ダンプを採取しません。

dump-image

- <形式 1>の場合
ログ、RM ダンプを採取します。
- <形式 2>の場合
ログ、CP コマンドダンプを採取します。

-f

確認メッセージなしでコマンドを実行します。ログ、ダンプ採取の有無を指定していない場合は、ログ、ダンプを採取します。

stop

再起動せずに停止します。

<System>

二重化構成時の再起動の対象となる系を指定します。

standby

待機系を指定します。

active

運用系を指定します。装置再起動の場合、系切替を行い、CP 再起動の場合は系切替を行いません。

なし

- <形式 1>の場合
装置全体の再起動を行います。
- <形式 2>の場合
装置全体の CP の再起動を行います。

注 `dump-image`、`no-dump-image` の両パラメータを選択しない場合、`dump-image` を選択した場合と同等の動作となります。

【訂正後】

[パラメータ]

secondary

本パラメータを指定した場合、必ず MC スロット 1 からソフトウェアを起動します。本パラメータは指定したときだけ有効であり、常時起動する MC スロットを設定したい場合は `set mode` コマンドを使用してください。

また、`system` パラメータを指定しなかった場合、本パラメータは運用系、待機系共に有効となります。

no-dump-image

ログ、ダンプを採取しません。

注 本パラメータを省略した場合、ログ、ダンプを採取します。

dump-image

- <形式 1>の場合
ログ、RM ダンプを採取します。
- <形式 2>の場合
ログ、CP コマンドダンプを採取します。

注 `no-dump-image`、`dump-image` の両パラメータを省略した場合、本動作と同等の動作となります。

-f

確認メッセージなしでコマンドを実行します。ログ、ダンプ採取の有無を指定していない場合は、ログ、ダンプを採取します。

stop

再起動せずに停止します。

<System>

二重化構成時の再起動の対象となる系を指定します。

standby

待機系を指定します。

active

運用系を指定します。装置再起動の場合、系切替を行い、CP 再起動の場合は系切替を行いません。

なし

- <形式 1>の場合
装置全体の再起動を行います。
- <形式 2>の場合
装置全体の CP の再起動を行います。

「[[実行例] (P170～P172)」を訂正します。

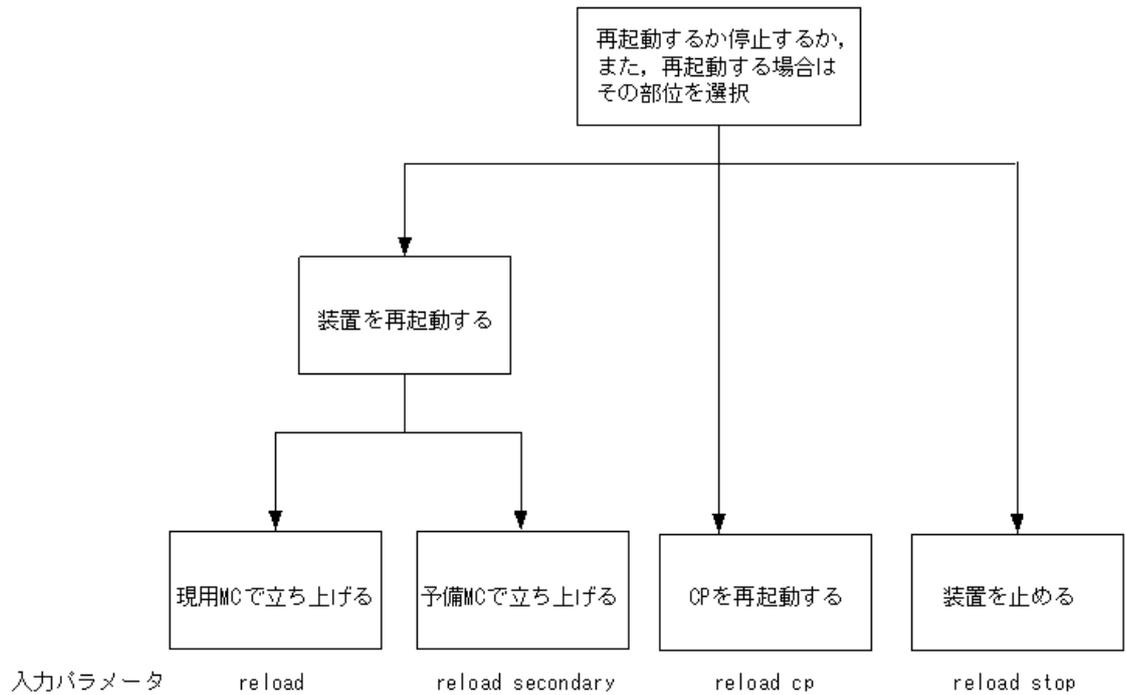
【訂正前】

[実行例]

実行例として、「運用系 CP の再起動」を行い、ログ、ダンプ取得については確認メッセージに従って行うときのコマンドパラメータ選択について説明します。

Step1

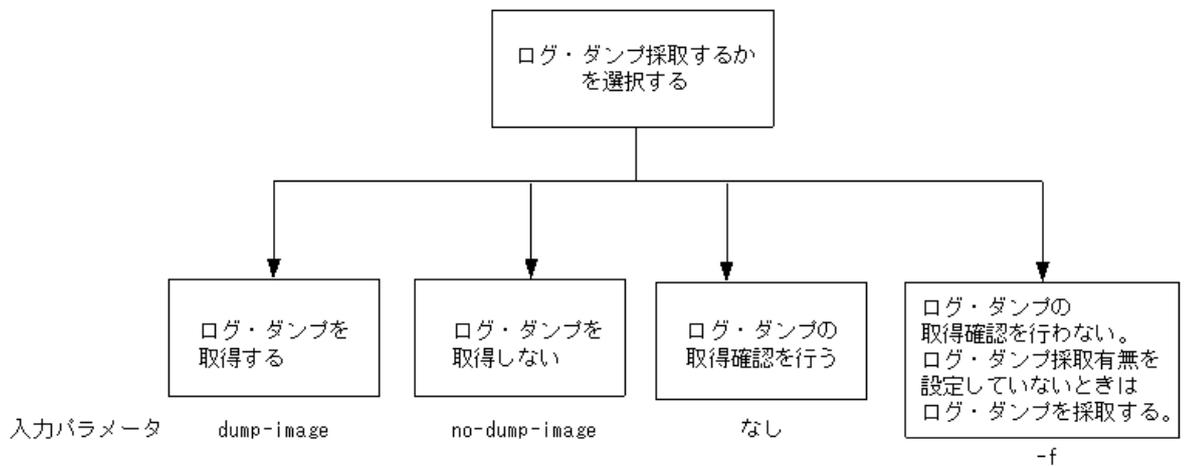
装置を再起動するか、停止するか、または CP を再起動するかを選択します。装置を再起動する場合はさらに、現用 MC を使って再立ち上げするか、予備 MC を使って再立ち上げするかを選択します。



Step1 では、CP を再起動させるので、上記図より「reload cp」を選択します。

Step2

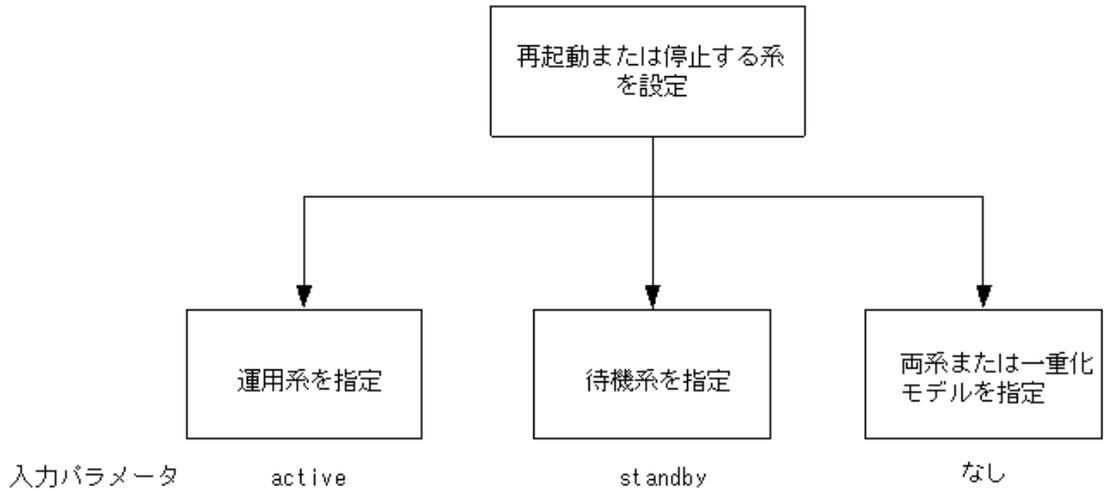
次にログ、ダンプ採取するかどうかを選択します。



Step2 では、ログ、ダンプ取得の確認を行うので、上記図よりパラメータは選択しません。

Step3

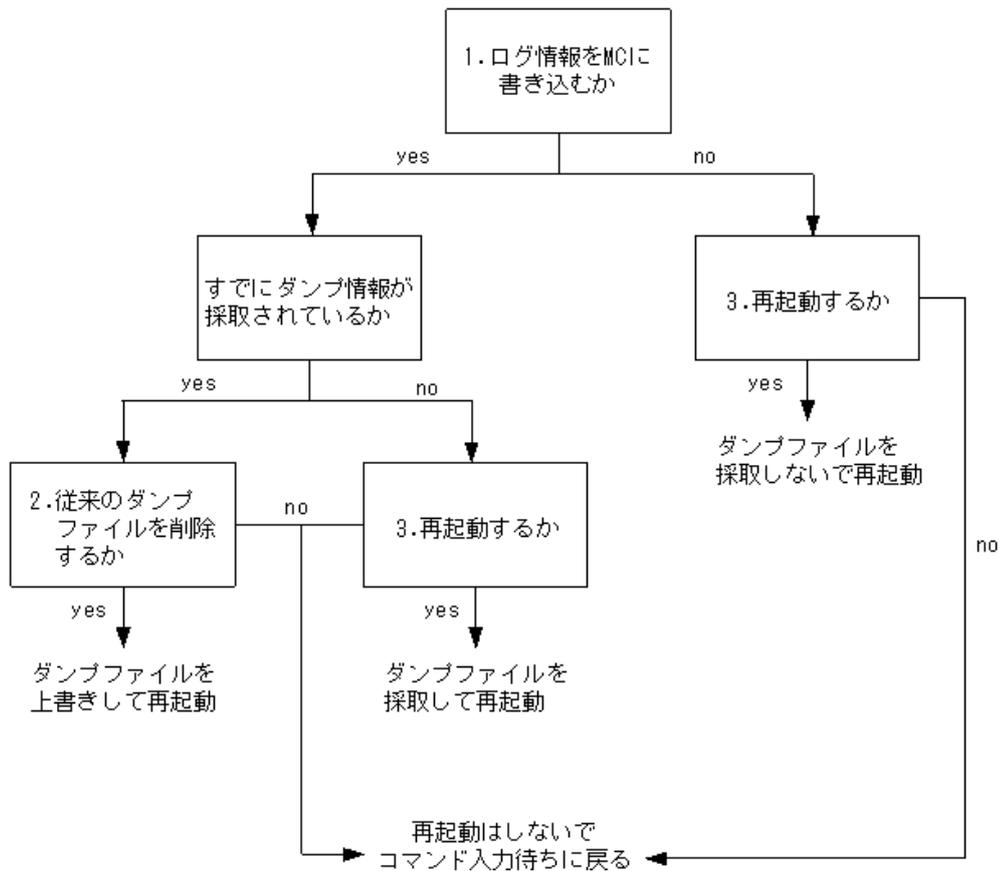
最後に、再起動または停止する系の設定を行います。一重化モデルで装置を運用している場合は、active と standby の設定はできません。



Step3 では、運用系を再起動させるので、「active」を選択します。Step1 から Step3 で選択したパラメータを組み合わせると「reload cp active」となります。このコマンドを入力すると、以下のようなログ、ダンプ取得確認メッセージが出力されます。

1. Writing log information to MC and restart (y/n)
2. act:old dump file(cp00.cmd 01/01 00:00) delete OK? (y/n):
3. Restart OK? (y/n):

上記のメッセージが出力されるタイミングは、次に示すフローチャートの番号に対応しています。



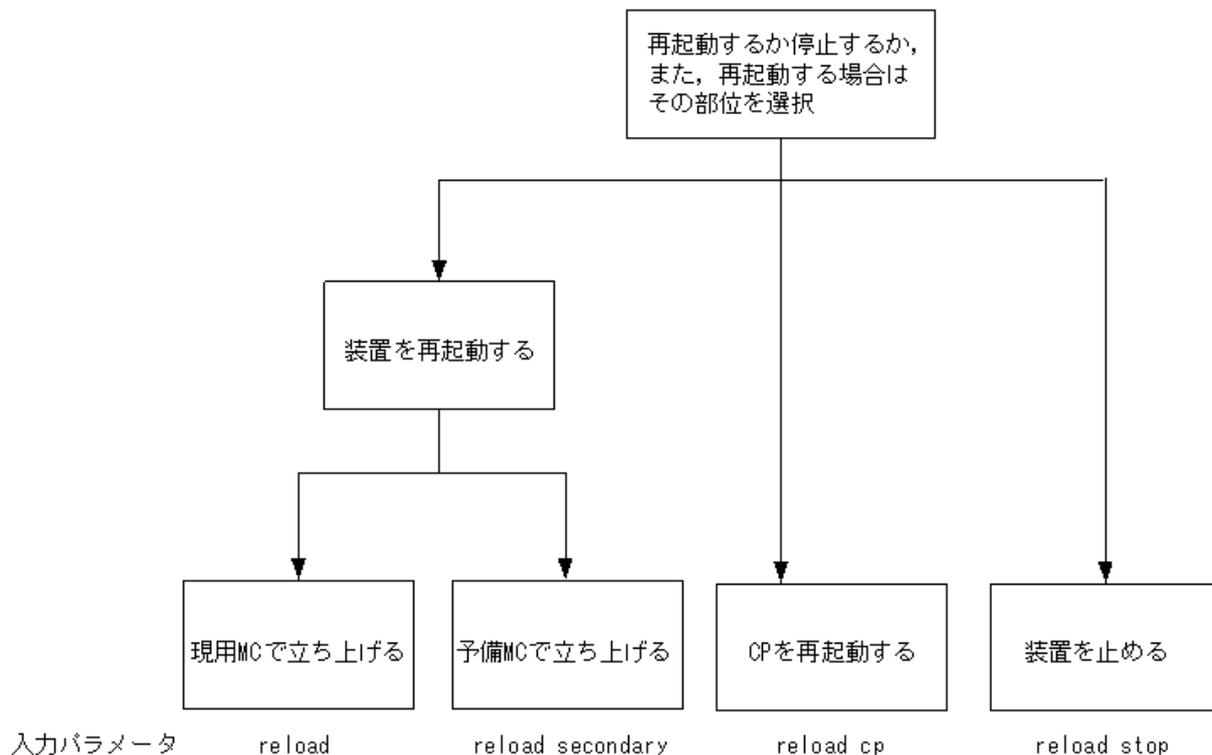
【訂正後】

[実行例]

実行例として、「運用系 CP の再起動」を行い、確認メッセージを表示し、ログ、ダンプを採取する場合のコマンドパラメータ選択について説明します。

Step1

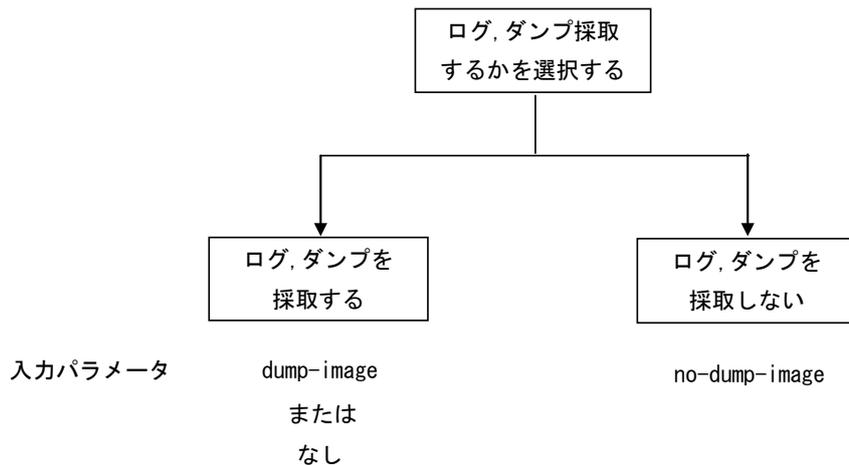
装置を再起動するか、停止するか、または CP を再起動するかを選択します。装置を再起動する場合はさらに、現用 MC を使って再立ち上げするか、予備 MC を使って再立ち上げするかを選択します。



本実行例では、CP の再起動を行うため、上記図より「reload cp」を選択します。

Step2

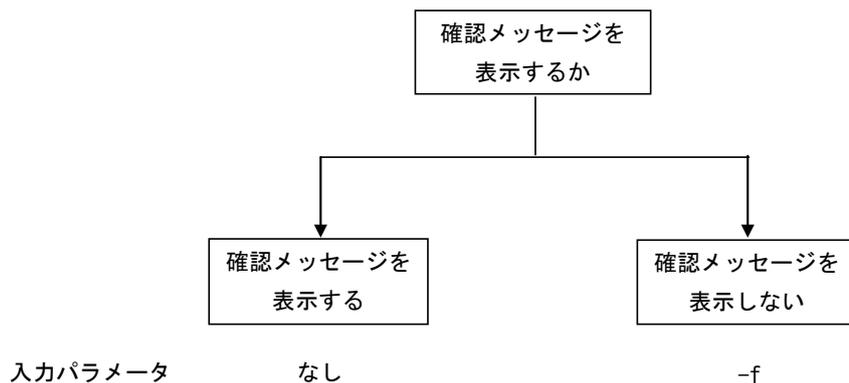
次にログ、ダンプ採取するかどうかを選択します。



本実行例では、ログ、ダンプの採取を行うので、上記図より入力パラメータなしを選択します。

Step3

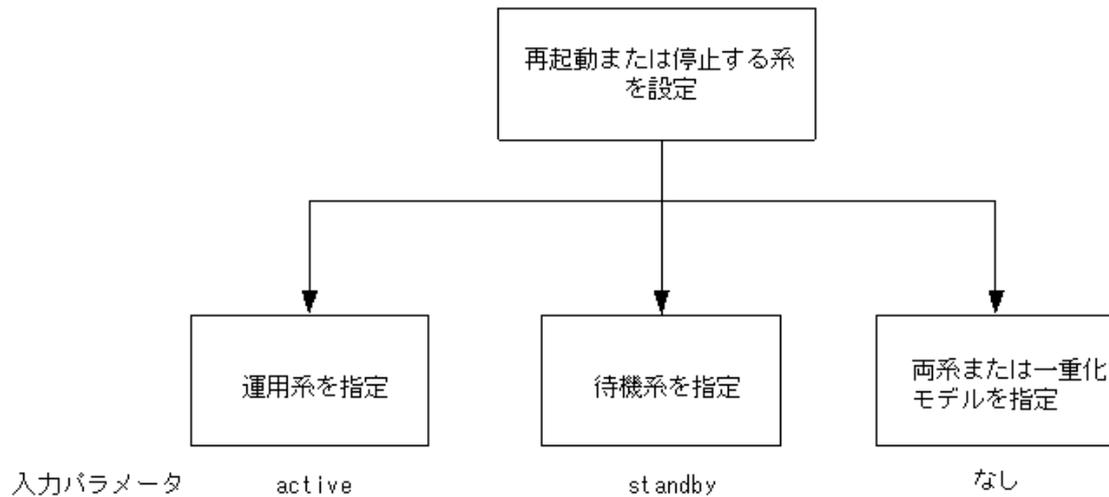
次に確認メッセージ表示を行うかどうかを選択します。



本実行例では、確認メッセージ表示を行うので、上記図より入力パラメータなしを選択します。

Step4

最後に、再起動または停止する系の設定を行います。一重化モデルで装置を運用している場合は、`active` と `standby` の設定はできません。



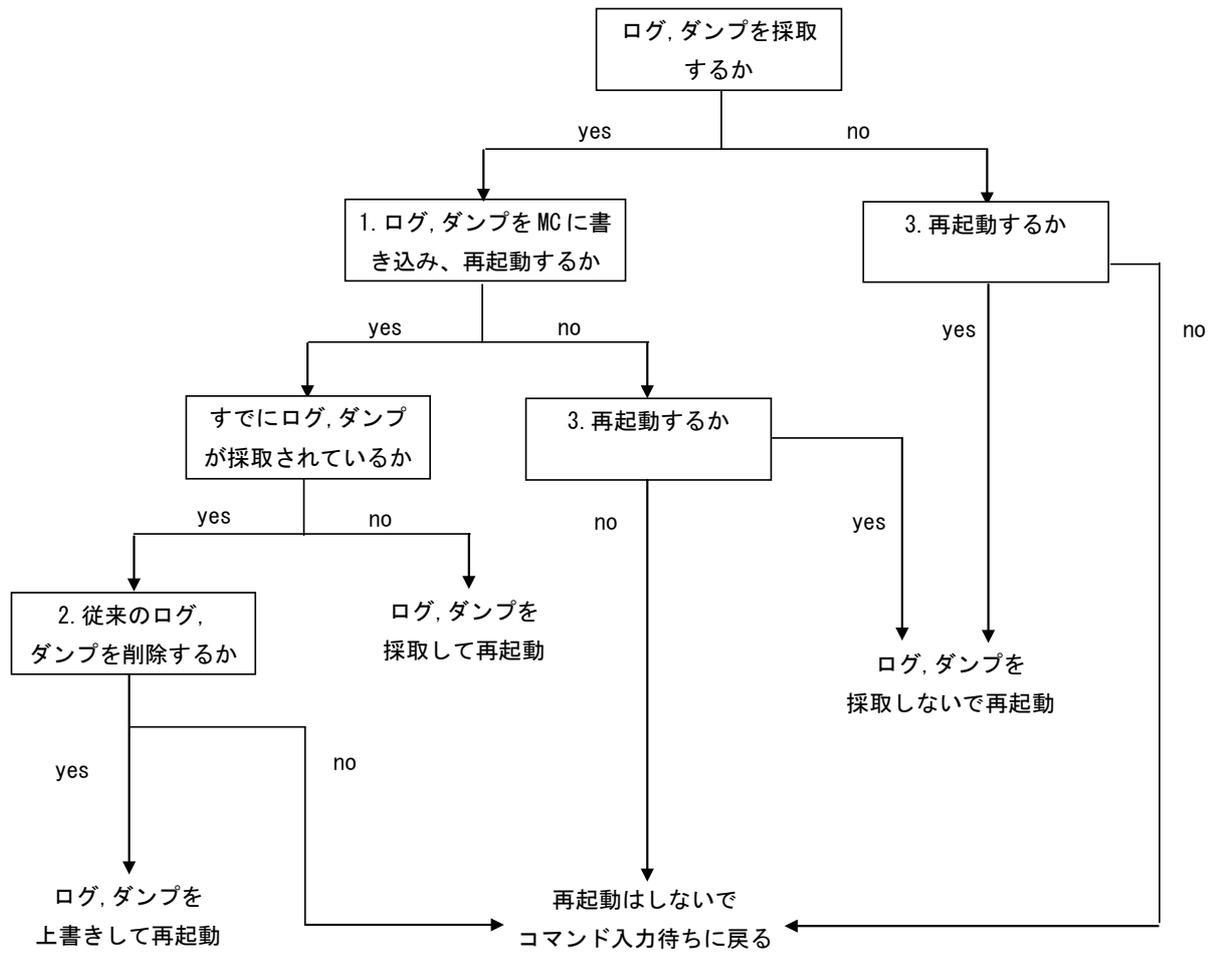
本実行例では、運用系を再起動させるので、「active」を選択します。

Step1 から Step4 で選択したパラメータを組み合わせると「reload cp active」となります。
このコマンドを入力すると、以下の確認メッセージが出力されます。

1. Writing log information to MC and restart (y/n)
2. act:old dump file(cp00.cmd 01/01 00:00) delete OK? (y/n):
3. Restart OK? (y/n):

上記の確認メッセージが出力されるタイミングは、次に示すフローチャートの番号に対応しています。

(-f パラメータを入力した場合は上記 1～3 の確認メッセージは出力されず、yes が選択された場合と同等の動作となります。)



11. PSU/BSU/NIF 管理 (P219~P249)

(1) *close nif* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P245)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 NIF を使用した通信ができなくなります。

(2) *free nif* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P247)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 NIF を使用した通信を再開します。

15. ダンプ情報 (P313~P333)

(1) *dump cp* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P315)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 CP を介した通信はできません。

(2) *dump psu* 【AX7800S】 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P318)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 PSU を介した通信はできません。

(3) *dump bsu* 【AX5400S】 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P321)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 BSU を介した通信はできません。

(4) *dump nif* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P324)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
再起動のパラメータを指定してダンプを採取する間、当該 NIF を介した通信はできません。

16. 時刻管理 (P335~P343)

(1) set calendar 【訂正】

「パラメータ (P337)」を訂正します。

【訂正前】

[パラメータ]

yy

年の下 2 桁を指定します。指定できる値は 70~99 (1900 年代) および 00~38 (2000 年代) です。(例.2000 年ならば 00)

<省略>

【訂正後】

[パラメータ]

yy

年の下 2 桁を指定します。指定できる値は 70~99 (1900 年代) および 00~37 (2000 年代) です。(例.2000 年ならば 00)

<省略>

「応答メッセージ (P338)」を訂正します。

【訂正内容】

[応答メッセージ]

表 16-1 set calendar コマンドのメッセージ一覧

メッセージ	内容
Can't execute this command in standby BCU.	待機系 BCU ではこのコマンドは実行できません。
illegal time format.	時刻入力形式が違います。
illegal time.	日付・時刻の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。
invalid day of month supplied.	日の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。
invalid hour supplied.	時の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。
invalid minute supplied.	分の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。
invalid month supplied.	月の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。
invalid second supplied.	秒の値が範囲外です。 範囲内の値を設定してください。

追加

(2) rdate 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P339)」を訂正します。

【訂正前】

24時間以上の大幅な時刻変更をした場合、通信が一時的に中断されることがあります。

【訂正後】

IPv4 ルーティング機能および IPv6 ルーティング機能を使用している場合、通信に影響することがあります。[注意事項] を参照してください。

17. イーサネット (P345~P422)

(1) close (イーサネット) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P405)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信ができなくなります。

(2) free (イーサネット) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P407)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信を再開します。

(3) test interfaces (イーサネット) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P412) を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信ができなくなります。

(4) no test interfaces (イーサネット) 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P420) を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該イーサネットインタフェースを使用した通信を再開します。

19. POS 【AX7800S】 (P447~P491)**(1) close (POS) 【AX7800S】 【訂正】**

「ユーザ通信への影響 (P471) を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

当該 POS インタフェースを使用した通信ができなくなります。

(2) free (POS) 【AX7800S】 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P473) を訂正します。

【訂正前】

「ユーザ通信への影響」

あり

【訂正後】

「ユーザ通信への影響」

当該 POS インタフェースを使用した通信を再開します。

(3) test interfaces (POS) 【AX7800S】 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P487)」を追加します。

【追加】

「ユーザ通信への影響」

当該 POS インタフェースを使用した通信ができなくなります。

(4) no test interfaces (POS) 【AX7800S】 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P490) を訂正します。

【訂正前】

「ユーザ通信への影響」

なし

【訂正後】

「ユーザ通信への影響」

当該 POS インタフェースを使用した通信を再開します。

23. スパニングツリープロトコル情報 (P529~P572)

(1) show spanning-tree 【訂正】

「[実行例 4 の表示説明] (P540~P542)」を訂正します。

【訂正内容】

[実行例 4 の表示説明]

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
BPDU Parameters	該当ポートの受信 BPDU 情報。括弧は最後に BPDU を受信した時刻。	ポートで受信した BPDU 情報を表示します。BPDU を受信していない場合は表示しません。当該ポートをルートガード機能でブロック状態にしている場合は、ブロック状態にした要因となる BPDU の情報を表示します。
Designated Root	BPDU に格納されているルートブリッジ情報	—
Priority	ブリッジ優先度	0~65535 値が小さいほど優先度が高くなります
MAC Address	MAC アドレス	ルートブリッジの MAC アドレス
Designated Bridge	BPDU に格納されているブリッジの情報	— ←訂正
Priority	ブリッジ優先度	0~65535 値が小さいほど優先度が高くなります
MAC Address	MAC アドレス	MAC アドレス ←訂正
Root Path Cost	ルートパスコスト	BPDU に格納されているルートパスコスト ←訂正
Port ID	BPDU に格納されているポートの情報	— ←訂正
Priority	ポート優先度	0~255 値が小さいほど優先度が高くなります
Number	ポート番号	0~897
Message Age Timer	受信した BPDU の有効時間	受信した BPDU の有効時間を表示します。有効期間を過ぎた場合は”-”を表示します。 <現時間><(BPDU 受信時の時間)/<最大時間> <現時間>: 受信時の時間に経過時間を追加した値 <BPDU 受信時の時間>: BPDU を受信したときにすでに経過している時間 (受信 BPDU の Message Age) <最大時間>: 有効時間 (受信 BPDU の Max Age)

「[実行例 5 の表示説明] (P545～P548)」を訂正します。

【訂正内容】

[実行例 5 の表示説明]

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
BPDU Parameters	該当ポートの受信 BPDU 情報。括弧は最後に BPDU を受信した時刻。	ポートで受信した BPDU 情報を表示します。BPDU を受信していない場合は表示しません。当該ポートをルートガード機能でブロック状態にしている場合は、ブロック状態にした要因となる BPDU の情報を表示します。
Designated Root	BPDU に格納されているルートブリッジ情報	—
Priority	ブリッジ優先度	0～65535 値が小さいほど優先度が高くなります
MAC Address	MAC アドレス	ルートブリッジの MAC アドレス
Designated Bridge	BPDU に格納されているブリッジの情報	— ← 訂正
Priority	ブリッジ優先度	0～65535 値が小さいほど優先度が高くなります
MAC Address	MAC アドレス	MAC アドレス ← 訂正
Root Path Cost	ルートパスコスト	BPDU に格納されているルートパスコスト ← 訂正
Port ID	BPDU に格納されているポートの情報	— ← 訂正
Priority	ポート優先度	0～255 値が小さいほど優先度が高くなります
Number	ポート番号	0～897
Message Age Timer	受信した BPDU の有効時間	受信した BPDU の有効時間を表示します。有効期間を過ぎた場合は”-”を表示します。 <現時間>(<BPDU 受信時の時間>)/<最大時間> <現時間>：受信時の時間に経過時間を追加した値 <BPDU 受信時の時間>：BPDU を受信したときにすでに経過している時間（受信 BPDU の Message Age） <最大時間>：有効時間（受信 BPDU の Max Age）

「[実行例 6 の表示説明] (P551～P556)」を訂正します。

【訂正内容】

[実行例 6 の表示説明]

表示項目	意味	表示詳細情報
：	：	：
BPDU Parameters	該当ポートの受信 BPDU 情報 括弧は最後に BPDU を受信した時刻	CIST または MST インスタンスのポートで受信した BPDU 情報を表示します。 BPDU を受信していない場合は表示しません。 Protocol Version が STP, RSTP の BPDU 情報は CIST でだけ表示します。 当該ポートをルートガード機能でブロック状態にしている場合は、ブロック状態にした要因となる BPDU の情報を表示します。
Protocol Version	プロトコルバージョン	受信した BPDU のプロトコルバージョンを示します。 STP(IEEE802.1D) : 隣接装置から STP(IEEE802.1D)のプロトコルバージョンの設定された BPDU を受信したことを示します。 RSTP(IEEE802.1w) : 隣接装置から RSTP(IEEE802.1w)のプロトコルバージョンの設定された BPDU を受信したことを示します。 MSTP(IEEE802.1s) : 隣接装置から MSTP(IEEE802.1s)のプロトコルバージョンの設定された BPDU を受信したことを示します。
Root	BPDU に格納されているルートブリッジ情報	Protocol Version が MSTP の場合は CIST ルートブリッジ情報を表示します。MST Instance1 以降では表示しません。 Protocol Version が STP, RSTP の場合はルートブリッジ情報を表示します。
Priority	ブリッジ優先度	0～65535 値が小さいほど優先度が高くなります。
MAC	MAC アドレス	ルートブリッジの MAC アドレス。 ← 訂正
External Root Path Cost	外部ルートパスコスト	Protocol Version が MSTP の場合は CIST ルートパスコストを表示します。MST Instance1 以降では表示しません。 Protocol Version が STP, RSTP の場合はルートパスコストを表示します。
Regional Root	BPDU に格納されている内部ルートブリッジ情報	Protocol Version が MSTP の場合は CIST および MSTI の内部ルートブリッジ情報を表示します。 Protocol Version が STP, RSTP の場合は表示しません。
Priority	ブリッジ優先度	0～65535 値が小さいほど優先度が高くなります。
MAC	MAC アドレス	内部ルートブリッジの MAC アドレス。 ← 訂正
Internal Root Path Cost	内部ルートパスコスト	Protocol Version が MSTP の場合は内部ルートパス

		コストを表示します。 Protocol Version が STP, RSTP の場合は表示しません。
Designated Bridge	BPDU に格納されているブリッジ情報	← 訂正
Priority	ブリッジ優先度	0~65535 値が小さいほど優先度が高くなります。
MAC	MAC アドレス	MAC アドレス。 ← 訂正
Port ID	BPDU に格納されているポートの情報	← 訂正
Priority	ポート優先度	0~255 値が小さいほど優先度が高くなります。
Number	ポート番号	0~892
Message Age Timer	受信した BPDU の有効時間	受信した BPDU の有効時間を表示します。 有効期間を過ぎた場合は” -” を表示します。 <現時間>(<BPDU 受信時の時間>)/<最大時間> <現時間> : 受信時の時間に経過時間を追加した値。 <BPDU 受信時の時間> : BPDU を受信した時にすでに経過している時間 (受信 BPDU の Message Age) 。 <最大時間> : 有効時間 (受信 BPDU の Max Age) 。
Remaining Hops	残り Hop 数	0~40 受信した BPDU に格納されている MST ブリッジの残り転送回数を表示します。 Protocol Version が STP, RSTP の場合は” -” を表示します。 ← 訂正

8. 運用コマンドレファレンス Vol. 2 Ver. 10. 10 (AX-10-023-J0) の訂正内容

1. IPv4 ネットワーク情報 (P1~P102)

(1) show ip-dual interface (IPv4) 【訂正】

「図 1-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】(P8)」を訂正します。

【訂正前】

図 1-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

```
<省略>
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 1-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

```
<省略>
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

「図 1-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】(P9)」を訂正します。

【訂正前】

図 1-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

```
<省略>
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 1-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

```
<省略>
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

(2) ping 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P24)」を変更します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

preload パラメータを使用した場合、CPU の使用率や送信帯域を大幅に消費しますので、通信に影響を与える恐れがあります。

(3) traceroute 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P26)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

(4) show netstat (netstat) (IPv4) 【訂正】

「注意事項 (P42)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・show netstat(netstat) コマンドを実行中にインタフェースの状態が変更されると、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 show netstat(netstat) コマンドを実行してください。

【訂正後】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・本コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度本コマンドを実行してください。

(5) *clear tcp (IPv4)* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P44)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
切断した TCP コネクションの通信が停止します。

(6) *show filter-flow (IPv4)* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P47)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。
値の範囲は 1~20000 を指定します。
本番号を省略した場合、フィルタリスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全フィルタリストを表示対象にします。

(7) *clear filter-flow (IPv4)* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P58)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。
値の範囲は 1~20000 を指定します。
本番号を省略した場合、フィルタリスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全フィルタリストをクリア対象にします。

(8) *clear ip dhcp binding* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P85)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

DynamicDNS 連携を設定している場合、同時に DynamicDNS サーバから対応するエントリレコードが削除(DNS 更新)されるため、名前解決ができなくなります。

(9) *restart dhcp* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P94)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

一時的に DHCP パケットの送受信が停止し、IP アドレスの配布や更新・解放などができなくなります。

2. IPv6 ネットワーク情報 (P103~P206)

(1) *show ip-dual interface (IPv6)* 【訂正】

「図 2-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】(P110)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
mtu 1280
inet6 2002:6464:6464:1::1/64
Time-since-last-status-change: Over 100 days
Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 2-4 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
mtu 1280
inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
Time-since-last-status-change: Over 100 days
Last down at: 6/7 17:25:00
```

「図 2-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】(P111)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
mtu 1280
inet6 2002:6464:6464:1::1/64
Time-since-last-status-change: Over 100 days
Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 2-5 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
mtu 1280
inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
Time-since-last-status-change: Over 100 days
Last down at: 6/7 17:25:00
```

(2) show ipv6 interface 【訂正】

「図 2-10 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】(P118)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-10 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 2-10 IP アドレス詳細情報表示【AX7800S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

「図 2-11 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】(P119)」を訂正します。

【訂正前】

図 2-11 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=80b1<UP,POINTtoPOINT,NOTRAILERS,NOARP,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

【訂正後】

図 2-11 IP アドレス詳細情報表示【AX5400S】

<省略>

```
TUN6to4: flags=c0e3<UP,BROADCAST,NOTRAILERS,RUNNING,NOARP,LINK2,MULTICAST>
  mtu 1280
  inet6 2002:6464:6464:1::1/64 (100.100.100.100)
  Time-since-last-status-change: Over 100 days
  Last down at: 6/7 17:25:00
```

(3) ping ipv6 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P129)」を変更します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

preload パラメータを使用した場合、CPU の使用率や送信帯域を大幅に消費しますので、通信に影響を与える恐れがあります。

(4) traceroute ipv6 【訂正】

「numeric パラメータ (P131)」を訂正します。

【訂正前】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名と IPv6 アドレスではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

【訂正後】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名ではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

(5) show netstat (netstat) (IPv6) 【訂正】

「注意事項 (P148)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・show netstat(netstat) コマンドを実行中にインタフェースの状態が変更されると、コマンドをエラー終了して障害回避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 show netstat(netstat) コマンドを実行してください。

【訂正後】

[注意事項]

- ・パラメータ wait を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・本コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害回避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度本コマンドを実行してください。

(6) *clear tcp (IPv6)* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P150)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]
なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]
切断した TCP コネクションの通信が停止します。

(7) *show filter-flow (IPv6)* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P153)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。
値の範囲は 40001~60000 を指定します。
本番号を省略した場合、フィルタリスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全フィルタリストを表示対象にします。

(8) *clear filter-flow (IPv6)* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P164)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>
コンフィグレーションフローフィルタ情報(flow filter)で設定したフィルタリスト番号。
値の範囲は 40001~60000 を指定します。
本番号を省略した場合、フィルタリスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全フィルタリストをクリア対象にします。

(9) *clear ipv6 dhcp binding* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P186)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

配布プレフィックスの経路自動設定機能を設定している場合、同時に経路情報から対応するエントリが削除されるため、通信ができなくなります。

(10) *restart ipv6-dhcp server* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P199)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

一時的に DHCPv6 パケットの送受信が停止し、プレフィックスの配布や更新・解放などができなくなります。

3. IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル情報 (P207~P364)**(1) *show ip static* 【追加】**

「ユーザ通信への影響 (P314)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

4. IPv4 マルチキャストルーティングプロトコル情報【OP-MLT】(P365～P411)

(1) *clear ip mroute* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P385)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

あり

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

該当するマルチキャスト経路情報およびマルチキャスト中継エントリを消去し、マルチキャスト通信を停止します。

その後、マルチキャスト経路情報およびマルチキャスト中継エントリを再学習することによりマルチキャスト通信を再開します。

5. IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル情報 (P413～P559)

(1) *show ipv6 static* 【追加】

「ユーザ通信への影響 (P527)」を追加します。

【追加】

[ユーザ通信への影響]

なし

7. QoS情報 (P599~P691)

(1) *show qos ip-flow* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P601)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS情報(flow qos)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS情報(flow qos)で設定した QoS リスト番号。
値の範囲は 1~20000 および 40001~60000 を指定します。
本番号を省略した場合、QoS リスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全 QoS リストを
表示対象にします。

(2) *clear qos ip-flow* 【訂正】

「パラメータ <List No.> (P617)」を訂正します。

【訂正前】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS情報(flow qos)で設定したリスト番号。
本番号を省略した場合、全リストが対象となります。

【訂正後】

<List No.>

コンフィグレーションフローQoS情報(flow qos)で設定した QoS リスト番号。
値の範囲は 1~20000 および 40001~60000 を指定します。
本番号を省略した場合、QoS リスト番号 1~20000 および 40001~60000 の全 QoS リストを
クリア対象にします。

9. 二重化管理 (P725~P742)

(1) clear mode 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P739)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

CSW モードが「single mode」に反映されるまでの間、一時的に通信が停止する場合があります。
【AX7800S】

10. GSRP (P743~P768)

(1) show gsrp 【訂正】

「VLAN グループ番号指定時の GSRP 情報表示例の[表示説明] (P747)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Member Port	VLAN グループに定義されている VLAN に属しているポート	—
Active Port	Active ポート	—
:	:	:

【訂正後】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Member Port	VLAN グループに定義されている VLAN に属しているポート	リンクアグリゲーションは集約ポートのリストに展開して表示します。
Active Port	Active ポート	リンクアグリゲーションは集約ポートのリストに展開して表示します。
:	:	:

「GSRP 詳細情報表示例の[表示説明] (P750)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Port Up Delay	回線アップ時のアクティブポートのカウンタ対象へ反映するまでの遅延時間	1~43200(秒)または infinity (infinity は無限を指します。)
:	:	:

【訂正後】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Port Up Delay	回線アップ時のアクティブポートのカウンタ対象へ反映するまでの遅延時間	0~43200(秒)または infinity (infinity は無限を指します。)
:	:	:

「ポート指定時の GSRP 情報の表示例の[表示説明] (P751~P752)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~4294967295
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~4294967295
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指す。)

【訂正後】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~4294967295 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~4294967295 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数(統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指す。) 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。

「ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示例の [表示説明] (P752~P753)」を訂正します。

【訂正前】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
Discard Fram	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指す。)
:	:	:

【訂正後】

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。
Discard Fram	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指す。) 同一リンクアグリゲーションのポートの場合、同じ値になります。
:	:	:

11. VRRP情報 (P769~P787)

(1) *swap vrrp (IPv4)* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P776)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

VRRP の状態遷移により、一時的に通信が中断することがあります。

(2) *swap vrrp (IPv6)* 【訂正】

「ユーザ通信への影響 (P784)」を訂正します。

【訂正前】

[ユーザ通信への影響]

なし

【訂正後】

[ユーザ通信への影響]

VRRP の状態遷移により、一時的に通信が中断することがあります。

9. メッセージ・ログレファレンス Ver. 10.10 (AX-10-024-J0) の訂正内容

3. 装置関連の障害およびイベント情報 (P115~P338)

(1) 3.4.1 イベント発生部位=RM 【訂正】

「表 3-8 イベント発生部位=RM の装置関連の障害およびイベント情報 (P156~P194)」を訂正します。

【訂正前】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
158	E7	RM	01200101	1001	RM software process stopped. CP を制御する RM のプロセスが停止しました。 [対応] 1. CP が再起動したことを, show system コマンドを使用して確認してください。 2. ダンプとログと障害待避情報(/primaryMC/var/core 下のすべてのファイル)およびコンフィグレーションを保守員へ送付してください。ダンプおよび障害待避情報の収集方法については, 「運用ガイド, 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 3. この現象が頻発する場合は装置を再起動してください。 4. 保守員は上記ダンプとログおよび障害待避情報を支援部署へ送付してください。
191	R7	RM	01200101	1001	RM software process restarted. CP を制御する RM のプロセスが再起動しました。 このメッセージは CP を制御する RM のプロセスが自動的に再起動した場合に出力されます。 [対応] なし。

【訂正後】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
158	E7	RM	01200101	1001	RM software process stopped. 装置を制御する RM 内のプログラムが停止しました。 [対応] 1. ダンプとログと障害待避情報(/primaryMC/var/core 下のすべてのファイル)およびコンフィグレーションを保守員へ送付してください。ダンプおよび障害待避情報の収集方法については, 「運用ガイド, 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. この現象が頻発する場合は装置を再起動してください。 3. 保守員は上記ダンプとログおよび障害待避情報を支援部署へ送付してください。
191	R7	RM	01200101	1001	RM software process restarted. 装置を制御する RM 内のプログラムが再起動しました。 このメッセージは装置を制御する RM 内のプログラムが自動的に再起動した場合に出力されません。 [対応] なし。

(2) 3. 4. 2 イベント発生部位=CP【訂正】

「表 3-9 イベント発生部位=CP の装置関連の障害およびイベント情報 (P195~P200)」を訂正します。

【訂正前】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
25	E8	CP	01500012 01500016 01500200 01b00016 01b00200	1132	CP restarted due to its software failure detected.
初期化中に CP ソフトウェア障害 (ソフトウェア書き込みエラー) が発生しました。CP を復旧します。 [対応] 1. ダンプおよびログ情報を保守員に渡してください。ダンプ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ダンプおよびログ情報を支援部署に送付してください。					

【訂正後】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
25	E8	CP	01500012 01500016 01500017 01500200 01b00016 01b00200	1132	CP restarted due to its software failure detected.
初期化中に CP ソフトウェア障害 (ソフトウェア書き込みエラー) が発生しました。CP を復旧します。 [対応] 1. ダンプおよびログ情報を保守員に渡してください。ダンプ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ダンプおよびログ情報を支援部署に送付してください。					

(3) 3. 6. 1 イベント発生部位=MC【訂正】【追加】

「表 3-15 イベント発生部位=MC の装置関連の障害およびイベント情報 (P215～P219)」を訂正します。

【訂正前】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位4桁	メッセージテキスト
内容					
15	E8	MC	00000103	2000	CP initialization cancelled due to a failure in loading CP software program.
CP ソフトウェアファイルの読み込みに失敗したため、CP の初期化を中止しました。 [対応] MC を交換してください。					

【訂正後】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位4桁	メッセージテキスト
内容					
15	E8	MC	00000103 00000104 00000105 0000010b 0000010c 0000010d	2000	CP initialization cancelled due to a failure in loading CP software program.
CP ソフトウェアファイルの読み込みに失敗したため、CP の初期化を中止しました。 [対応] MC を交換してください。					

「表 3-15 イベント発生部位=MC の装置関連の障害およびイベント情報 (P215～P219)」に追加します。[Ver. 10.10.K以降]

【追加】

項 番	イベ ント レ ベル	イベ ント 発 生 部 位	メッ セー ジ 識 別 子	付 加 情 報 上 位 4 桁	メ ッ セ ー ジ テ キ ス ト
					内 容
29	E5	MC	0000011f 00000124	2000	Access error detected on the CompactFlash card <slot>.
					MC へのアクセスエラーを検出しました。 <slot> : MC 実装位置(Slot0 または Slot1) [対応] MC 故障の恐れがあるため、当該 MC を交換してください。 copy mc コマンド、format mc コマンド等は実行しないでください。
30	R5	MC	0000011f 00000124	2000	The CompactFlash card which has detected access error was recovered from <slot>.
					アクセスエラーを検出した MC が回復しました。 <slot> : MC 実装位置(Slot0 または Slot1) [対応] なし。

(4) 3. 7. 1 イベント発生部位=BCU 【訂正】 【追加】

「表 3-19 イベント発生部位=BCU の装置関連の障害およびイベント情報」 (P241)」を訂正します。

【訂正前】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位4桁	メッセージテキスト
内容					
45	E8	BCU	01500302	2313	CP stopped because of its existing hardware failure.
BCU ハードウェア障害からの復旧に失敗したため、CP を停止しました。 [対応] 1. ダンプ、ログ情報を保守員に渡してください。ダンプ、ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。					
47	E8	BCU	01500331	2313	Recovery due to the failure was restrained.
該当ボードは障害による復旧を抑止しています。 [対応] show logging コマンド, または show logging コマンドで standby パラメータを指定してログを確認してください。障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置をしてください。					

【訂正後】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位4桁	メッセージテキスト
内容					
45	E8	BCU	01500302	2313	CP restarted, but not recovered from hardware failure.
BCU ハードウェア障害からの復旧に失敗したため、CP を停止しました。 [対応] 1. ダンプ、ログ情報を保守員に渡してください。ダンプ、ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。					
47	E8	BCU	01500313	2313	Recovery due to the failure was restrained.
該当ボードは障害による復旧を抑止しています。 [対応] show logging コマンド, または show logging コマンドで standby パラメータを指定してログを確認してください。障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置をしてください。					

「表 3-19 イベント発生部位=BCU の装置関連の障害およびイベント情報 (P233～P245)」に追加します。[Ver. 10.10.K以降]

【追加】

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位4桁	メッセージテキスト
					内容
77	E8	BCU	00000302	2301	BCU hardware failure detected.
					BCU ハードウェアの障害を検出しました。 [対応] 1. ログ情報を保守員に渡してください。ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。
78	E9	BCU	0b07340d	2303	This system will be restarted because BCU hardware failure detected.
					このシステムは BCU のハードウェア障害を検出したため、再起動します。 [対応] 1. ダンプ、ログ情報を保守員に渡してください。ダンプ、ログ情報の収集方法については、「運用ガイド 9.2 保守情報のファイル転送」を参照してください。 2. 保守員は上記ログ情報を支援部署に送付してください。 3. 保守員は BCU ボードを交換してください。
79	E3	BCU	00000004	2301	BCU power failure detected on other system.
					旧運用系 BCU の電源障害を検出しました。 本メッセージは、旧運用系 BCU の電源障害による系切替が発生した場合に新運用系で表示します。 [対応] 1. 保守員は旧運用系の BCU ボードを交換してください。

10. MIBレファレンス Ver. 10. 10 (AX-10-025-J0) の訂正内容

2. 標準MIB (RFC準拠およびIETFドラフトMIB) (P17~P199)

(1) 2. 11 snmpグループ (MIB-II) 【追加】

「(1)識別子 (P71)」の前に以下の説明を追加します。

【追加】

本装置では、SNMP エージェント、および SNMP マネージャ相当の機能を持つ snmp の運用コマンド群をサポートしています。本 MIB グループ内の統計情報は、SNMP エージェントだけを統計情報の対象としていて、snmp の運用コマンド群の統計情報は含みません。

本 MIB グループ内の統計情報には、snmp の運用コマンド群で MIB を取得した場合でも、ネットワーク上の SNMP マネージャから MIB を取得したときと同様にメッセージ数や PDU 数がカウントされます。

(2) 2. 24. 2 dot3adAggPortグループ 【訂正】

「表 2-105 dot3adAggPort グループの実装仕様 (P170~P174)」を訂正します。

【訂正内容】

表 2-105 dot3adAggPort グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
：	：	：	：	：
11	dot3adAggPortPartnerOperSystemID {dot3adAggPortEntry 9}	R/O	[規格]プロトコルパートナーのシステム ID の操作上の値。 [実装]規格と同じ。	● ← 訂正
：	：	：	：	：
40	dot3adAggPortDebugLastRxTime {dot3adAggPortDebugEntry 2}	R/O	[規格]最後に AggregationPort が LACPDU を受信したときの aTimeSinceSystemReset の値。 [実装]規格と同じ。	● ← 訂正
41	dot3adAggPortDebugMuxState {dot3adAggPortDebugEntry 3}	R/O	[規格]AggregationPort に対する Mux ステートマシンの状態。 {detached(1), waiting(2), attached(3), collecting(4), distributing(5), collecting_distributing(6)} ← 訂正 [実装]規格と同じ。	●
：	：	：	：	：

3. プライベートMIB (P201~P373)

(1) 3. 6. 4 axsFlowQosグループ【訂正】

「表 3-31 axsFlowQos グループの実装仕様 (P254~P279)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-31 axsFlowQos グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
170	axsFlowQosInActMaxRate {axsFlowQosInActEntry 4}	INTEGER	R/O	最大帯域制御での監視帯域値(kbit/s)を示します。※3 (4..10,000,000) (最大帯域制御未使用の場合(-1))	● ← 訂正
171	axsFlowQosInActMaxRateBurst {axsFlowQosInActEntry 5}	INTEGER	R/O	最大帯域制御でのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最大帯域制御未使用またはUPC-RED(Max)機能を使用の場合(-1))	● ← 訂正
172	axsFlowQosInActMaxUpcRedMinBurst {axsFlowQosInActEntry 6}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最小バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合(-1))	● ← 訂正
173	axsFlowQosInActMaxUpcRedMaxBurst {axsFlowQosInActEntry 7}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合(-1))	● ← 訂正
174	axsFlowQosInActMaxUpcRedProbability {axsFlowQosInActEntry 8}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大違反率(1/10%)を示します。 (0..1000) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合(-1))	● ← 訂正
175	axsFlowQosInActMinRate {axsFlowQosInActEntry 9}	INTEGER	R/O	最低帯域監視での監視帯域値(kbit/s)を示します。※3 (4..10,000,000) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	● ← 訂正
176	axsFlowQosInActMinRateBurst {axsFlowQosInActEntry 10}	INTEGER	R/O	最低帯域監視でのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最低帯域制御未使用またはUPC-RED(Min)機能を使用の場合(-1))	● ← 訂正
177	axsFlowQosInActMinUpcRedMinBurst {axsFlowQosInActEntry 11}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最小バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合(-1))	● ← 訂正

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
178	axsFlowQosInActMinUpcRedMaxBurst {axsFlowQosInActEntry 12}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1))	● 訂正
179	axsFlowQosInActMinUpcRedProbability {axsFlowQosInActEntry 13}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大違反率(1/10%)を示します。 (0..1000) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1))	● 訂正
:	:	:	:	:	:
184	axsFlowQosInActMinOverPriority {axsFlowQosInActEntry 18}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットの出力優先度を示します。(1..8) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	● ^{※1} 訂正
:	:	:	:	:	:
188	axsFlowQosInActMinOverDiscard {axsFlowQosInActEntry 22}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットのキューイング優先度を示します。 (1..4) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	● 訂正
:	:	:	:	:	:
193	axsFlowQosInActMinOverDscp {axsFlowQosInActEntry 27}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットのDSCP値を示します。 (0..63) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	● 訂正
:	:	:	:	:	:
204	axsFlowQosInActPremMaxRateBurst {axsFlowQosInActPremEntry 4}	INTEGER	R/O	最大帯域制御での重要フローのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最大帯域制御での重要フローのバーストサイズ未使用の場合(-1))	● 訂正
205	axsFlowQosInActPremMinRateBurst {axsFlowQosInActPremEntry 5}	INTEGER	R/O	最低帯域監視での重要フローのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最低帯域監視での重要フローのバーストサイズ未使用の場合(-1))	● 訂正
:	:	:	:	:	:
211	axsFlowQosOutActMaxRate {axsFlowQosOutActEntry 4}	INTEGER	R/O	最大帯域制御での監視帯域値(kbit/s)を示します。※3 (4..10,000,000) (最大帯域制御未使用の場合(-1))	● 訂正
212	axsFlowQosOutActMaxRateBurst {axsFlowQosOutActEntry 5}	INTEGER	R/O	最大帯域制御でのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最大帯域制御未使用またはUPC-RED(Max)を使用の場合(-1))	● 訂正

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
213	axsFlowQosOutActMaxUp cRedMinBurst {axsFlowQosOutActEntry 6}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最小バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
214	axsFlowQosOutActMaxUp cRedMaxBurst {axsFlowQosOutActEntry 7}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
215	axsFlowQosOutActMaxUp cRedProbability {axsFlowQosOutActEntry 8}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Max)機能使用時の最大違反率(1/10%)を示します。 (0..1000) (UPC-RED(Max)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
216	axsFlowQosOutActMinRate {axsFlowQosOutActEntry 9}	INTEGER	R/O	最低帯域監視での監視帯域値(kbit/s)を示します。※3 (4..10,000,000) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	● ← 訂正
217	axsFlowQosOutActMinRateBurst {axsFlowQosOutActEntry 10}	INTEGER	R/O	最低帯域監視でのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最低帯域制御未使用またはUPC-RED(Min)を使用の場合(-1))	● ← 訂正
218	axsFlowQosOutActMinUp cRedMinBurst {axsFlowQosOutActEntry 11}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最小バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
219	axsFlowQosOutActMinUp cRedMaxBurst {axsFlowQosOutActEntry 12}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大バーストサイズ(Byte)を示します。 (1..268,435,456) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
220	axsFlowQosOutActMinUp cRedProbability {axsFlowQosOutActEntry 13}	INTEGER	R/O	UPC-RED(Min)機能使用時の最大違反率(1/10%)を示します。 (0..1000) (UPC-RED(Min)機能未使用の場合 (-1))	● ← 訂正
221	axsFlowQosOutActAgQueueOp {axsFlowQosOutActEntry 14}	INTEGER	R/O	階層化シェーパのアグリゲートキュー番号の指定方法を示します。 {アグリゲートキュー番号指定なしの場合(0),アグリゲートキュー番号を指定(1),auto 指定(2)}	● ← 訂正
:	:	:	:	:	:
225	axsFlowQosOutActMinOverPriority {axsFlowQosOutActEntry 18}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットの出力優先度を示します。 (1..8) (最低帯域監視未使用の場合(-1))	●※2 ← 訂正
:	:	:	:	:	:

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
229	axsFlowQosOutActMinOverDiscard {axsFlowQosOutActEntry 22}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットのキューイング優先度を示します。 (1..4) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ←	● 訂正
:	:	:	:	:	:
234	axsFlowQosOutActMinOverDscp {axsFlowQosOutActEntry 27}	INTEGER	R/O	最低帯域監視使用時に最低契約帯域に違反したパケットの DSCP 値を示します。 (0..63) (最低帯域監視未使用の場合(-1)) ←	● 訂正
:	:	:	:	:	:
245	axsFlowQosOutActPremMaxRateBurst {axsFlowQosOutActPremEntry 4}	INTEGER	R/O	最大帯域制御での重要フローのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最大帯域制御での重要フローのバーストサイズ未使用の場合(-1)) ←	● 訂正
246	axsFlowQosOutActPremMinRateBurst {axsFlowQosOutActPremEntry 5}	INTEGER	R/O	最低帯域監視での重要フローのバーストサイズ(Byte)を示します。 (0..131,072) (最低帯域制御での重要フローのバーストサイズ未使用の場合(-1)) ←	● 訂正

4. サポートMIBトラップ (P375~P405)

(1) 4.1 サポートトラップおよび発行契機【訂正】

「表 4-1 サポートトラップおよび発行契機 (P378)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項番	トラップの種類	意味	発行契機	実装有無
15	bgpEstablished 【OP-BGP】	BGP リンク確立	BGP プロトコルで FSM (Finite State Machine) が, Establish 状態になったとき。	●
16	bgpBackwardTransitions 【OP-BGP】	BGP リンク切断	BGP プロトコルで FSM が closed 状態になったとき。	●

【訂正後】

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項番	トラップの種類	意味	発行契機	実装有無
15	bgpEstablished 【OP-BGP】	BGP リンク確立	BGP で FSM (Finite State Machine) が, Establish 状態になったとき。	●
16	bgpBackwardTransition 【OP-BGP】	BGP リンク切断	BGP で FSM が closed 状態になったとき。	●

(2) 4.2 サポートトラップ -PDU内パラメータ【AX7800S】【訂正】

「表 4-2 サポートトラップ-PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合) (P384)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-2 サポートトラップ -PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値					
		enterprise	agentaddr	generic-trap	specific-trap	time-stamp	variable-bindings
15	bgpBackward Transitions 【OP-BGP】	bgpTraps のオブジェクト ID 1.3.6.1.2.1.15.7	特定の IP アドレス ※	6	2	sysUpTime の値	bgpPeerLastError, bgpPeerState

【訂正後】

表 4-2 サポートトラップ -PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値					
		enterprise	agentaddr	generic-trap	specific-trap	time-stamp	variable-bindings
15	bgpBackward Transition 【OP-BGP】	bgpTraps のオブジェクト ID 1.3.6.1.2.1.15.7	特定の IP アドレス ※	6	2	sysUpTime の値	bgpPeerLastError, bgpPeerState

「表 4-3 サポートトラップ-PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合) (P391)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-3 サポートトラップ -PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値		
		Variable-Binding [1](SysUpTime.0)	Variable-Binding [2](SnmpTrapOID.0)	Variable-Binding [3~]
15	bgpBackward Transitions 【OP-BGP】	sysUpTime の値	bgpBackwardTransitions のオブジェクト ID (1.3.6.1.2.1.15.7.2)	bgpPeerLastError, bgpPeerState

【訂正後】

表 4-3 サポートトラップ -PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値		
		Variable-Binding [1](SysUpTime.0)	Variable-Binding [2](SnmpTrapOID.0)	Variable-Binding [3~]
15	bgpBackward Transition 【OP-BGP】	sysUpTime の値	bgpBackwardTransition のオブジェクト ID (1.3.6.1.2.1.15.7.2)	bgpPeerLastError, bgpPeerState

(3) 4.3 サポートトラップ -PDU内パラメータ【AX5400S】【訂正】

「表 4-4 サポートトラップ-PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合) (P396)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-4 サポートトラップ -PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値					
		enterprise	agentaddr	generic-trap	specific-trap	time-stamp	variable-bindings
15	bgpBackward Transitions 【OP-BGP】	bgpTraps のオブジェクト ID 1.3.6.1.2.1.15.7	特定の IP アドレス ※	6	2	sysUpTime の値	bgpPeerLastError, bgpPeerState

【訂正後】

表 4-4 サポートトラップ -PDU 内パラメータ一覧 (SNMPv1 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値					
		enterprise	agentaddr	generic-trap	specific-trap	time-stamp	variable-bindings
15	bgpBackward Transition 【OP-BGP】	bgpTraps のオブジェクト ID 1.3.6.1.2.1.15.7	特定の IP アドレス ※	6	2	sysUpTime の値	bgpPeerLastError, bgpPeerState

「表 4-5 サポートトラップ-PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合) (P402)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-5 サポートトラップ -PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値		
		Variable-Binding [1](SysUpTime.0)	Variable-Binding [2](SnmpTrapOID.0)	Variable-Binding [3~]
15	bgpBackward Transitions 【OP-BGP】	sysUpTime の値	bgpBackwardTransitions のオブジェクト ID (1.3.6.1.2.1.15.7.2)	bgpPeerLastError, bgpPeerState

【訂正後】

表 4-5 サポートトラップ -PDU 内パラメーター一覧 (SNMPv2c/SNMPv3 の場合)

項番	種類	トラップ PDU データ値		
		Variable-Binding [1](SysUpTime.0)	Variable-Binding [2](SnmpTrapOID.0)	Variable-Binding [3~]
15	bgpBackward Transition 【OP-BGP】	sysUpTime の値	bgpBackwardTransition のオブジェクト ID (1.3.6.1.2.1.15.7.2)	bgpPeerLastError, bgpPeerState